

東北新幹線でまた感電事故

重大事故もJR東日本は公表せず



9月2日、東北新幹線・小山～那須塩原駅間にある変電所で停電が発生しました。原因は、鉄道電気工事に従事する50代の作業員が変電機器の測定中に感電したことでした。

屋内と外とをつなぐ電線の絶縁作業が予定されており、事故当時はその準備の前でした。作業員は準備中に足場上がり、高圧部分に接触したと考えられています。その結果、全身やけどの重症を負いました。

なぜ公表しないのか

命を失っていてもおかしくない重大事故であり、労働災害です。しかし、JR東日本はこの事態を公表していません。

この事故について、「安全管理を怠った可能性もある」ということで業務上過失傷害の疑いで捜査が行われました。

JRが公表しなかった理由は、「捜査中だから」とされています。

しかし、「捜査中」ということは

重大事故を公表しない理由にはなりません。この間、新幹線で重大事故が相次ぐ中で問題を隠そうとしたとは思えません。

新幹線で相次ぐ重大事故

東北新幹線では、昨年1月にも感電事故が起っています。大宮～上野間での架線トラブルで停電し、終日運転見合わせとなった事態の復旧作業での事故でした。協力会社の作業員2人が救急搬送されています。

その他にも、2度（24年9月と25年3月）にわたって走行中の列車が分離する、最新型車両が走行不能で5時間半不通（25年6月）など重大事故が相次いでいます。

新幹線は車両の製造や検査、インフラ整備など、「もっとも厳しい基準」で行われているはずですが、その新幹線で重大事故が相次ぐというのは、鉄道の安全、技術継承の崩壊を示しています。

しかし、会社は、「現業と非現業の区別をなくす」と掲げ、「機能保全を含めた検修部門の全面外注化」など技術継承と安全をさらに崩壊させる攻撃を進めようとしています。「闘いなくして安全なし」——労働者の権利を守るためにも、鉄道の安全を守るためにも、職場に必要なのは闘う労働組合です。